



丹後地域 第37号

リハビリ通信

～うさぎのプランコ～

編集/発行

丹後圏地域リハビリテーション支援センター
(公益財団法人 丹後中央病院内)
〒627-8555 京丹後市峰山町杉谷 158-1

TEL 0772-62-8301 FAX 0772-62-8302

e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com

<http://www.tangohp.com/tangoshien.html>

ホームページより PDF 形式でご覧いただくことができます

令和2年度 第2回 事例検討会 開催報告

リハビリテーション専門職の連携をテーマに行いました。

丹後圏域のリハビリテーションに関わる 39 名の方に参加いただきました。

日時：令和2年12月2日（水）16：30～18：30

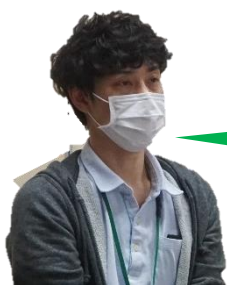
場所：WEB

シンポジウムでは、各機関の連携に関する取り組みを報告いただきました。

- 急性期病院では、患者さんの変化に注意し、リスク管理を行いながら積極的な離床を促し、廃用を予防していく必要がある。
- 入院期間中、地域連携室の職員がリハビリ場面を見学したり、リハスタッフと情報共有を積極的に行っている。
- 転院時には情報提供書を作成している。



京都府立医科大学附属北部医療センター 理学療法士 石飛 千尋 氏



- 回復期リハビリテーション病棟は、急性期と在宅の中間に位置し、円滑なリハビリテーションを行う上で急性期や在宅との連携が重要となる。
- 介入前には、入院時情報提供シートやリハサマリーを参考にして情報収集を行い、退院時はリハ情報提供書や返書を作成している。

丹後中央病院 理学療法士 三宅 毅志 氏

- 地域包括ケア病棟は、①急性期治療を経過した患者さんの受け入れ、②在宅で療養を行っている患者さんの受け入れ、③在宅復帰支援を担っている。
- 亜急性期の方を対象として 60 日間プログラムを実施している。
- シームレスな POS 連携を行ってきたい。



京丹後市立弥栄病院 理学療法士 梅田 匡純 氏



- 介護老人保健施設は、在宅支援・在宅復帰のための地域拠点となる施設。
- 患者さんのリハビリ意欲、介入時の様子、リハビリメニューなどを具体的に教えてほしい。

介護老人保健施設 リハヴィラなぎさ苑 作業療法士 小川 雄 氏

- 退院前にリハビリの様子を確認し、退院後の生活をイメージして一緒に検討したい。
- セラピストと顔の見える関係作りをしたい。
- 在宅に帰るにあたり、回復状況の見通しを教えてほしい。



京丹後市やさか老人保健施設 ふくじゅ 介護支援専門員 城下 直子 氏

シンポジウムでは、丹後圏域におけるリハビリテーション連携の課題がいくつか挙げられたため、今後その課題に対して関係機関と連携して解決にむけて検討していきたいと思います。



感想

- どのような情報が欲しいかなど、具体的に聞く事ができて良かった。
- 専門職同士でも悩みなどがあると思う。そのようなことを相談し、教え合える環境が丹後で作っていただけたと感じた。
- 数年前に比べ、近隣の施設のセラピストとの交流や、どんな内容の介入を行っているかわからない状況にある。そんな中で、各病期の介入、取り組みが聞けて参考になった。発表の中にもあったが、専門職として取り組み、縦につなげることの重要性を実感した。

令和2年度 第3回 事例検討会 開催報告

医療的ケア児等コーディネーターとの連携をテーマにWEBで行いました。
医療的ケア児に関わる29名の方に参加いただきました。

日時：令和2年12月18日（金）14：00～16：00

テーマ：医療的ケア児等コーディネーターとリハビリテーション専門職の協働

実践報告では、各専門職から医療的ケア児への支援を報告いただきました。

医療的ケア児等コーディネーターとして、療育センター退所から在宅、保育園入園まで、A君やその家族の願いを叶えたいという思いで関わっています

保健師として、在宅療養児と関係職種のネットワーク構築を目指して関わっています



京都府丹後保健所
保健師 麻角 昌子 氏

児童発達支援センターすずらん

施設長 田上 秀美 氏



理学療法士として、訪問リハビリテーションで発達を促すように遊びを通して関わっています



宮津訪問看護ステーション
理学療法士 曽根 佳子 氏



京都府立医科大学附属北部医療センター
看護師 柴山 夕子 氏

病棟看護師として、ショートステイ受け入れのための調整、入院中の療養生活で関わっています



吉津保育園分園（マ・ルートキッズランド）
主幹保育教諭 廣野 幹子 氏

保育士として、看護師と連携して発達を促すように生活の中で関わっています



実践報告後、顔の見える関係作りのために、参加者全員で自己紹介を行いました。

その後3グループに分かれて、在宅療養児支援の実践状況などについてディスカッションを行いました。

感想

- 医療・福祉・教育（保育）での連携がとれている、とても良い事例でした。
- 地域の課題も見えてきた事例検討でした。
- 多くの関係機関の方と交流する機会となり大変貴重な時間となりました。今後も様々なケースを検討し合える場があるとよりよい支援につながると思います。
- 上手くいっているときも上手くいっていないときも、定期的に会議を持つなど、情報共有し続けることが重要だと感じました。

今年度の事業予定

- 第4回事例検討会「障害のある人への就労支援」
 - 🕒 2021/2/3（水）14：00～16：00
 - 📍 WEB 開催
 - 📋 実践報告とグループワーク
- 丹後圏域地域リハビリテーション実践交流会 お気軽サミット
 - 🕒 2021/3/9（火）15：00～17：00
 - 📍 WEB 開催
 - 📋 実践報告 5演題予定

※詳細については、<http://www.tangohp.com/tangoshien.html> を参照ください。